

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 14日は、高気圧が日本の南へ移動する。サハリン付近に低気圧が進み、気圧の谷が日本海にのびる。
- 15日は、オホーツク海で低気圧が発達し、気圧の谷が本州付近を通過する。日本付近は次第に冬型の気圧配置となる。
- 16日は、低気圧が千島近海で発達し、日本付近は冬型の気圧配置が続く。
- 17日は、冬型の気圧配置は西から緩み、高気圧が18日にかけて東シナ海から日本の南を移動する。

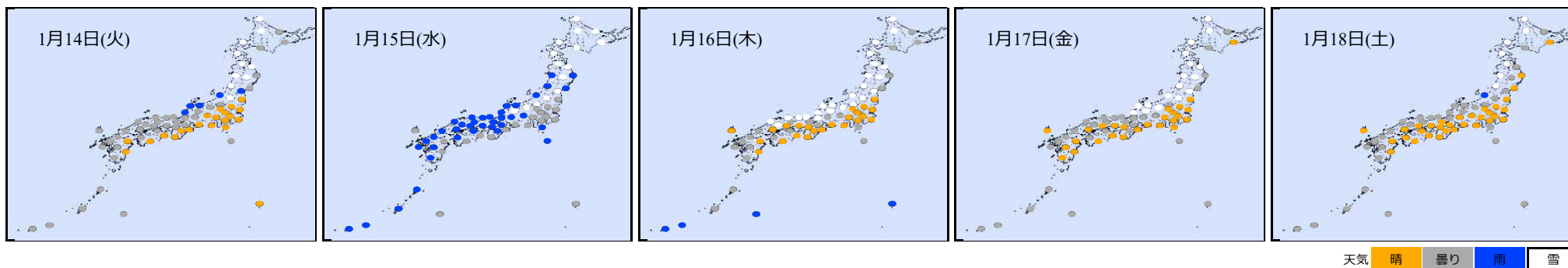
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 15日から16日頃は、低気圧の影響や冬型の気圧配置の強まりにより、北日本から東日本の日本海側を中心に荒れた天気となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

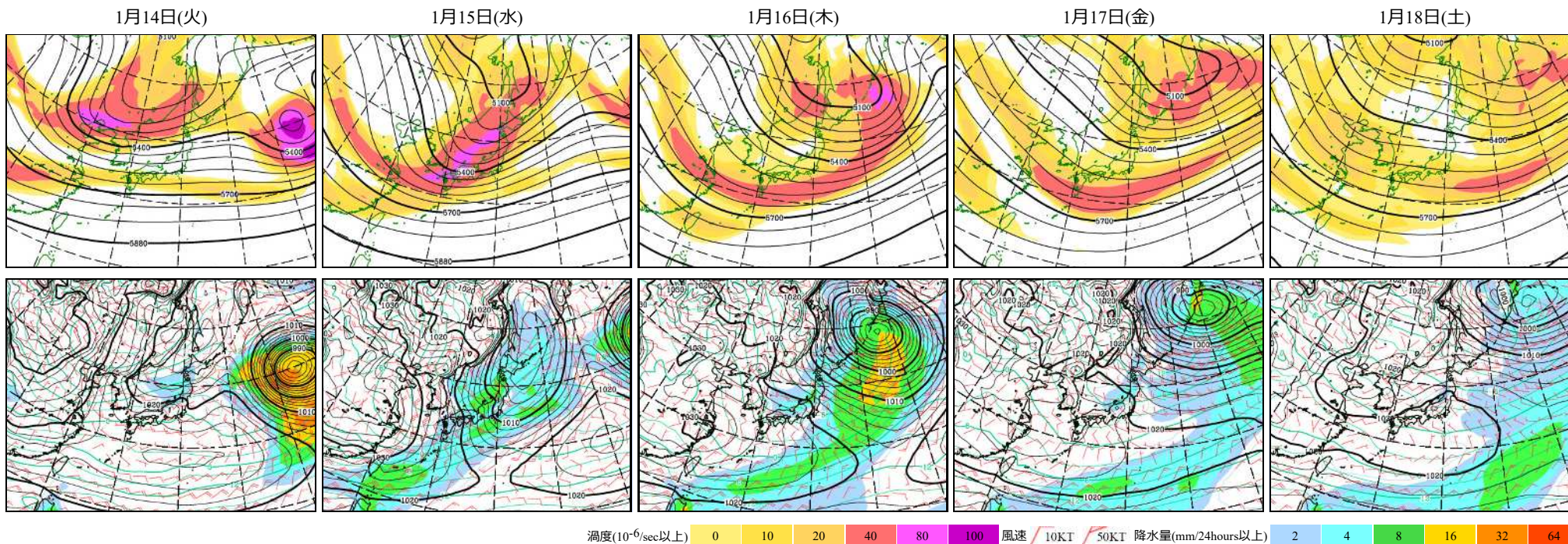
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

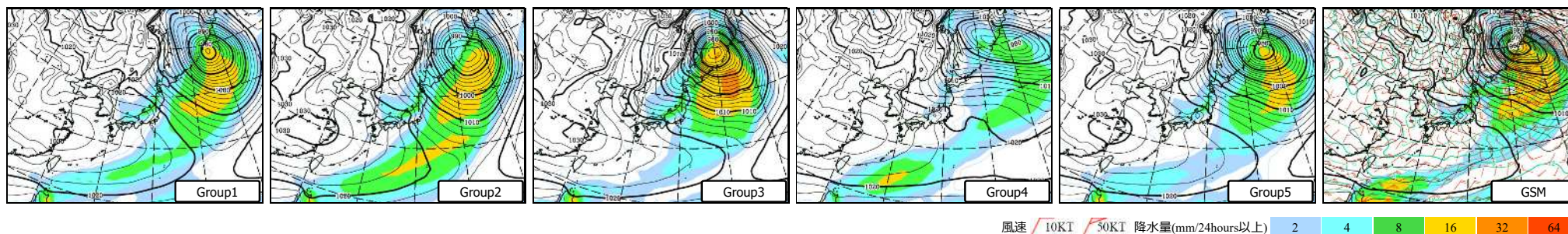


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、15日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく15日から16日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月16日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、14日から15日にかけて本州付近を通過する気圧の谷が深くなり、15日から16日にかけて千島近海へ進む低気圧の勢力が強まり、北日本付近の冬型の気圧配置が強まった。
- スプレッドは、特段大きくはないが5400mの特定高度線は期間の中頃からばらつきが大きい。
- 17日は冬型の気圧配置が昨日資料より弱くなったことに対応して、西日本日本海側の降水確率ガイダンスの値が小さくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。